

【考え・基礎知識】

・木の枝や石などの自然の素材を使って簡単な玩具を作ることができる。
・伝統文化としてコマ回しの遊びが伝承されていることを知っている。

【つながり】

・材料の素材や重さ、長さ、形などの違いに着目して手作りのコマを創意工夫して作る。
・より長く回るコマや、回った時に模様がよりきれいに見えるコマ等を作るためにどうすればよいかを考え、実行する。

【応用・ひろがり】

・関わる対象を広げることで相手に応じて伝え方を工夫する。遊ぶ玩具を変えることで、試行錯誤してもつくりができる。

- ◇ 学年 小学部 第5学年
- ◇ 単元名 手作りコマで遊ぼう
- ◇ 単元の目標 ○より長く回るコマや、回った時に模様がよりきれいに見えるコマ等、自分で作りたいコマを決め、試行錯誤しながら作ることができる。
○コマ作りで困った時に、何が必要か等、解決方法を考え、実行することができる。
- ◇ 単元の計画（全10時間）

学習活動	時数	指導上の留意事項
<p>課題の設定（2）</p> <p>★児童の興味・関心を高める導入の工夫が大切です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリや巻貝、ペットボトル等のいろいろな素材で作ったコマで遊び、コマ作りに興味をもつ。 ・身近な自然の素材を使った玩具作りの既習経験や、歴史博物館でコマ回し名人からコマ回しのコツを教えたもらった経験を写真や映像を用いて想起する。 ・ゲストティーチャーと長く回す競争をしたり、回したときの模様の美しさを比べたりする。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストティーチャーと一緒にコマを回す際は、ゲストティーチャーが勝つことで「自分も先生のように回したい」、「長く回るコマを自分で作りたい」という気持ちなど制作意欲を高める。
<p>情報の収集・整理・分析（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作りたいコマを決め、作るためにどうすればよいかを考える。 ・よく回るコマの作り方や回し方のコツを知るために、誰にどのような方法で聞けばよいかを考え、手紙、インタビューなど相手に応じた方法で依頼する。 ・材料集めや作り方、回し方のコツを教えてもらう。 ○生活の身近な材料を使ってコマを作る。 ・校外を散策して集めたり、家庭からリサイクルできる材料を持ち寄ったりするなどして必要な材料を集め、素材ごとに分類する。 ・自分で作りたいコマになるように、材料の素材や大きさ、形などを変えながら作る。 	2 2	<p>★試行錯誤しながらコマを作ることを通して、材料の違いや作り方によってコマの回り方が変わることのおもしろさに気付かせたり、創意工夫することの楽しさを感じさせたりすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が課題を忘れないよう、作るコマが素材や目的に合っているか確認させる。 ○困っている児童に、困っていることを自分の言葉で伝えるよう促す。伝えることが難しい児童には、教師が言葉を補う。穴をきれいに開けるなど難易度の高い作業は、高等部の作業学習木工班に依頼するよう促す。 ○タブレット端末を用いて製作の様子を動画や写真に撮る。
<p>まとめ・創造・表現（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーに勝つための工夫を披露し合う。 ・役割分担をし、対戦に必要な台を作ったり、挑戦状を書いたりする。 ・コマを回す練習をする。 ・挑戦状を渡す際に、自分の作ったコマを紹介し、こだわって作ったポイントや、工夫したことなどを披露する。 ・ゲストティーチャーと対戦する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科や図画工作科の時間に学習したことが活用できることに気付かせる。 ○相手に分かりやすく説明するために、タブレットPCで記録した映像を使う。 ○ゲストティーチャーにあらかじめ本単元のねらいを伝え、目標に即した評価ができるようにする。 ○休憩時間に下学年の児童と遊ぶ機会を設定する。
<p>振り返り（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本単元を振り返る。 ・本単元を振り返るとともに、一緒に遊びたい他の遊びを考える。 	1	<p>★ビデオ映像で、これまでの活動を振り返ることで、工夫を重ねることの楽しさや達成感を味わわせ、次単元への意欲につなげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後の単元等での活用を念頭に、本単元の学習のポイントを押さえておく。

児童の実態

- 本学級には、知的障害のある児童6名が在籍している。3名の児童は自閉傾向がある。
- 興味のある遊びが同じであれば友だち同士で関わり合いながら遊ぶ姿が見られるようになってきている。
- これまでに図画工作科や、生活単元学習の学習を通して、ハサミや糊など用具の使い方や、校内の自然探索等で身近な素材を使ってものづくりができるという基本的な知識や技能を身に付けている。
- 前単元で歴史博物館を見学し、昔の玩具遊びを経験している。紐や手でコマを回し、競うことのおもしろさを感じている児童や、回っているコマの模様の変化に興味をもつ児童など、手指の巧緻性や興味・関心に係る児童の実態は様々である。
- 身近な材料を使って簡単な動く玩具等を作った経験から、ゴムの特性等を理解している。
- 自分で考え、工夫して取り組むことに課題がある。

指導の工夫

- 作り方等を助言する人、競う人等、それぞれの教師の役割を明確にし、児童が安心して取り組める環境を設定することが大切である。
- 「課題の設定」では、児童の興味・関心を高めさせるために、いろいろな素材で作ったコマを用意し、教師が上手に回す様子を実際に目の前で見せ、コマの回る様子や、スピード感を感じさせることで「自分もコマを回したい」「かっこいい」などの気持ちをもたせるような導入の工夫が有効である。
- 「情報の収集・整理・分析」では、コマ作りの参考となる情報に気付かせることで試行錯誤させ、創作意欲を持続させる。既習事項の活用を促したり、友だちの作品と比較させたり、失敗した中から新たな発見につながるような助言をしたりするなど、丁寧な指導計画の作成が重要である。
- 成功経験が少ないことなどにより、主体的に取り組む意欲が十分育っていない知的障害のある児童生徒にあきらめずに試行錯誤させるためには、児童に創作過程で困った時に友だちや教師に伝えるよう促すこと、教師が児童のつぶやきを引き出す言葉かけや挑戦したことを賞賛する言葉かけをすること、タイミングを見計らって助言したりすること等が重要である。
- コマ作りの手掛かりとなる、コマの作り方のコツを知るために、学習経験のある「インタビュー」という方法を活用させることにより、実際の生活につながる手紙の書き方など、生活課題に即した力を育むことにつなげることができる。
- 「まとめ・創造・表現」では、完成したコマを披露し合う場を設定することで、自分が工夫したことを相手に分かりやすく伝える力を育てることができる。また、順序や中心に気を付けて説明するためや、言葉の説明を補うために、タブレット端末で記録した映像を使う。
- 「振り返り」では、映像を用いて振り返ることで、工夫を重ねることの楽しさや、粘り強く取り組むことによる達成感を味わわせ、次単元への意欲につなげる。

発展的な学習

- 凧やめんこなど遊ぶ玩具を変えることで、本単元で身に付けた試行錯誤する力を発揮させる。また、対象を姉妹校提携している海外校の児童にすることで、言葉や文化の違いを踏まえ、身振りや映像資料などを使い、分かりやすく伝えることができる。
- 本単元で培った「創作意欲」「思考力」「諦めずに最後まで取り組む態度」等の資質・能力は、中学部の「作業学習」における、働く意欲や、作業に粘り強く取り組む態度につながる。